

四 支那事變の將來

蘆溝橋事件を契機として今次事變の幕が切つて落されてから、舉國奮闘の間にも年月は流れて將に二周年を迎へんとするに至つたが、此の間、御稜威の下、忠勇なる皇軍は陸に海に空に偉大なる戦果を収めた。即ち敵軍に與へた損害は死傷、投降、逃亡、合計二百餘萬人、飛行機の撃墜及び地上爆破合計二千餘臺、戦利品また莫大の數量にして、占據地域は我が國の二倍に餘り、此の中に收容する支那良民竝に歸順民は一億七千餘萬人に及び、此の地域は所謂支那の中原であつて主要都市の大多數と之を繋ぐ水陸交通の幹線を收めて居り、之を包む戦線の長さは實に三千六百浬に餘り、(世界大戰に於ける西部戦線は約七百九十浬)、更に海にあつては支那艦船の大部を撃沈して制海權を我に收め、長大なる海岸の封鎖を完成して居る。

凡そ一國對一國の兵力を以てする戦に於て、此の様な偉大なる戦果を収めた戦は世界戦史上、未だ曾て其の例を見ないのであるが、夫れにも拘らず、**事變處理の全局から觀**

れば、未だ峠を越して居らない。蓋し今次の事變は既に前項に述べた様な建設戦であつて、武力戦だけでは其の全局を處理し得ない特質を有つからである。即ち更生新支那の建設に協力し、日滿支の提携共助を實現して東亞の安定を確保すべき新秩序の建設を行ふことは今次事變の目標であつて、此の目的貫徹の爲めには長期に亙り各種の困難を伴ふことを覺悟せねばならぬ。従つて武力戦だけの戦果を以て事變が解決したかの如く考へ、或は此の建設の大業を單に平時的な建設の如く考へるならば、それは大なる誤謬である。武力戦はまだまだ長く続き、建設もまた第三國の壓迫干渉を排除しつゝ戰時的體制下に於て帝國の總力を動員して行ふべき血みどろの建設であり、荆棘の道を往く進軍である。文字通り長期戦であり、武力、經濟力、思想力其他有形無形一切の力を擧げて遂行すべき國家總力戦である。従つて國外に在るものも國內にあるものも、戦の庭に立つものも銃後にあるものも、共に事變處理の戦士となり、長期に亙つて堅忍持久、舉國一致此の聖業に邁進せねばならない。而して之に依つて支那の大勢を誤れる遠交近攻、容共抗日より親日滿防共に向せしむると共に、政治、經濟、文化等の各般に亙つて日

滿支三國提携共助の根幹を作り、東亞に於ける國際正義の確立、共同防共の達成、新文化の創造、經濟結合の實現に關する基礎工作を完成せねば今次事變の解決は期し得ないのである。然らば事變の將來は何うなるか、其の認識を一層具體的に把握するには事變

事變の將來

處理の大方針を日支の現況と國際情勢とに即應して具體的に検討する必要がある。

其の第一は國民政府即ち蔣政權の後始末を如何にするかの問題である。武漢に敗北し

長期腐蝕

て中原を去り廣東の海外連絡線を遮断されたる國民政府は、今や地方の一政權に過ぎざ

ることは疑を容れないが、彼にして果して親日滿防共に轉じ、更生の實を示して東亞の新秩序建設の聖業に來り參するや否やは甚だ疑問である。何となれば彼が二十年來培養し來つた排日抗日の國民思想はあまりに深刻に徹底し之がために彼は自縛自縛に陥り、遂に親日滿防共に轉向し得ざる境遇にあるばかりでなく、他方親日滿防共への轉向は彼を今日まで支援し操縦し來つた「ソ」聯邦を始め英佛等の野望遂行を挫折せしめる結果となり、従つて東亞の安定を阻害する之等第三國の奸策は尙も繼續せられ、「ソ」聯邦を背景とする共產黨の壓力と利權を繞る英佛等の魔手とに依つて蔣政權は操作せられるから

支那事變の眞意義

三七

1679

である。故に蔣政權内に一部の先覺者ありと雖も、彼等の希望は容易に實現されそうもない。然らば蔣政權にして更に國共合作を繼續し、長期抗戰を敢てする場合に於ては如何になるか、蔣政權麾下の軍隊は尙百五十萬を算し、廣東の封鎖ありと雖も、軍需品は一方蘇聯邦より陸路を通じて供給せられ、他方佛領印度支那及び英領ビルマ方面より同じく陸路を通じて供給せられて居り、武漢敗退後彼の蟠踞せる地帯は地の利を有すると共に食糧資源も可成豊富であるから、相當長期に互る抗戰能力を有するものと見ねばならぬ。即ち帝國は彼が抗戰を繼續する限り、既定方針に基く膺懲、潰滅戰を續行すべく、今後尙長期膺懲の唱導せられる所以は茲に存する。尙國共合作の繼續に成功すると否とに拘らず、支那共産軍にして「ソ」聯邦の支援の下に抗戰を繼續し、東亞の新秩序建設を妨害するに於ては、之に對しても膺懲を考慮せねばならない。

長期建設

第二は更生新支那の建設に關する問題であるが、支那新中央政府の育成、之と帝國との間に於ける國交調整其の他の政治工作、治安恢復の爲の武力工作、日滿支共存共榮のための經濟工作、防共工作、文化工作等何れも帝國の全力を擧げて協力指導せねばな

らぬ事業である。茲に滿洲事變に於ける治安工作の例に徴するに滿洲國の建國當初、三十萬と稱せられた匪賊及び敗殘兵の討伐のために、數箇師團の兵力と約七箇年の年月と年々二億乃至三億圓の經費とを用ひ、今も尙之に依つて治安を維持しつゝあることを思へば、蔣政權に對する長期膺懲の外に、建設のための武力工作だけに就て考ふるも、如何に重大なる事業であるかゞ想像される。又經濟工作に於ては、應急の處置として先づ支那民衆に食を與へ、有無相通じて利用し得べきものは速かに之を利用することも必要であるが、其の本格的建設に當つては、日滿支三國の國防確立に資すると同時に、三國經濟の發展及び民衆の厚生に遺憾なからしむることを主眼とすべく、埋藏資源就中重工業資源の開發を始とし、棉花、羊毛、鹽等の資源の培養、開發、之がために要する交通施設等何れも五年計畫、十年計畫を以て進まねばならない。而も之がためには、日本は莫大なる資本と優秀なる技術とを提供して協力指導すべきである。更に排日容共の支那を親日滿防共の支那に轉向せしめ衷心より東亞更生の聖業に協力せしむる文化工作に至つては、少くとも三十年乃至五十年を要する事業であつて、日滿支提携の應急對策だけ

を考ふるも、速効的な思想工作を積極的、持続的に遂行せねばならない。而して政治工作は之等の諸工作と併行して全面的に推進すべきものであつて、新興政權の堅實なる發展は一に右の諸工作の堅實なる進展如何に繋がること勿論である。要するに之等の諸工作即ち建設の事業は、主として日本民族の雙肩に懸る重大責務であつて、長期建設の唱導せらるゝ所以は蓋し右の理由に存するのである。

第三は今後の國際情勢に對處しつゝ、事變處理に當る爲の國家總戦力擴充に關する問題である。

惟ふに前述の如き蔣政權の長期膺懲と、更生新支那乃至東亞新秩序の長期建設とは、東亞の赤化を進行せしめつゝある「ソ」聯邦及び東亞特に支那に於て、専ら經濟的搾取を繼續せんとする第三國にとつては、甚だしく苦痛である。今次の事變に於て、之等の諸國が終始蔣政權の援助と利權の獲得とに狂奔せる事實を見ても、日本と全く利害相反することが明白であり、従つて苟くも我が國力の疲弊、國民精神の弛緩等乘すべき機會を與ふるに於ては彼等は相提携して日本を壓迫し、東亞更生の事業を覆滅せむと企圖しつ

第三國の
對に於て
干渉に
するに
對する
總戦力
擴充の
必要

つあることは之を察知するに難くない。

かの蔣政權に對する軍需品供給は固より、張鼓峰事件、天津上海等の租界問題の如き或は我が海外報道が常に歪曲せられて帝國の眞意と事變の眞相とが傳達されざるが如き、何れも日本に對する妨害であり牽制である。故に長期膺懲、長期建設の間に於て、帝國が萬一、國力の消耗又は疲勞の色を現はすが如きことあらば、必ずや日清戦役に於ける如き第二の三國乃至四國干渉を誘發する危険がある。

尙「ソ」聯邦は滿洲事變後極東に於ける軍備を愈々強化し、之を背景として不法行爲を反復しつゝあるばかりでなく、近き將來を自途として、東西兩面同時作戦にも應じ得る如く大軍備の充實中であり、英米等の大軍備充實も亦屢々報道せられる如く近き將來に完成する見込であつて、此の頃に世界平和の危機が豫想せられ、且つ之等の軍備を背景とする我が東亞更生事業への強力なる干渉が豫想せられる。従つて帝國は今から此種の危機に應ずる準備に着手せねば遅くなる。就中軍備及び生産力の擴充の如きは、永年計畫に基いて實施すべき性質のもので、一朝一夕に飛躍し得ないものであるから、直に

之に取りかゝる必要がある。

更に支那民衆特に其の知識階級に眼を轉すれば、彼等の容共抗日思想及び遠交近攻の思想は甚だしく根強くして、單なる政治、經濟、文化等の工作のみを以てしては之を近き將來に芟除することが至難である。蓋し支那をしてかゝる誤謬に陥らしめたる根本原因は、支那の背後に存する黒幕であつて、此の黒幕の策動を封止せざる限り、容共抗日、遠交近攻の思想は慥かに親日滿防共に向し得ないものと觀なければならぬ。

三大事業
同時進行

右の理由に基き帝國は長期膺懲、長期建設の二大事業を遂行するに當り、第三國の妨害を封じ、且つ日滿支の提携共助を推進して事變處理を有效迅速ならしむるため、國家總戦力の飛躍的増進といふ第三の大事業をその二大事業と同時に遂行せねばならない。戦ひつゝ養ひ建設しつゝ固めて、事變處理のために消耗する國力よりも増進する國力を大ならしむる必要がある。而して國力の飛躍的増進とは軍備の充實、之に應ずる産業就中重工業の劃期的躍進、之に伴ふべき國內調整並に思想戦力の強化等が其の主要なるものであつて、長期建設の事業と相表裏して進行すべきものである。

右の様な事情にあるから、支那事變の將來は未だ前途遼遠であつて今後に向大なる難路が豫想される一面に於て熱し易く冷め易いと言はれる國民性の弱點を警戒して自肅自戒不斷の鞭撻に努め、所謂歐米流の個人主義、自由主義等の迷夢から覺醒して萬民輔養滅私奉公の皇道精神に立ち歸り、國家總力戰態勢を強化擴充して此の難路を突破せねばならぬ。

素より今次の事變の眞意義は個人主義や自由主義の立場からは到底把握出來ない。之に反し一度八紘一宇の大精神を體して日本主義、皇道主義の立場に就くならば極めて明白であつて、帝國臣民の凡てに其の所を得しめ將來の生活を安定せしむる爲にも、東亞諸民族を救済する爲にも、東亞永遠の安定を圖り世界人類に寄與する爲にも、國策を遂行して萬古不易の國是を實現する爲にも、滅私奉公以て東亞積年の禍根を一掃し、新秩序を建設せねばならぬことが理解出來る。而して其の成否が日本民族は固より東亞諸民族の死活問題であることは、今更多辯を要しないのであつて、既に此の聖業のために犠牲となつた幾萬の勇士や、莫大の國費を思ひ、以上の如く事變の將來を見透すならば更

個人主義
自由主義
を排し皇
道主義へ

支那の成
否と日本
及び東亞
の興衰

支那事變の眞意義

四三

1685

に一段の努力を拂つて前述の如く國家總力戰態勢を強化し、聖戰を推進することの必要が痛感せられる。

銃後の安

今や國家總動員法の必要なる條項は逐次追加發動せられ、國民精神總動員また強化せられて、官民等しく戰士として事變處理に邁進しつゝあるは洵に喜ぶべき現象であつて、交代のため第一線より歸還したる將兵諸士も上陸の第一歩より國家總力戰の新任務に就き、而も尊き戰場の體驗を有する歴戰勇士として、率先垂範以て銃後の中堅指導者となる様に指導して居る。

將選兵は國民指導の中堅

第一線將士に對する期待

右の様に、銃後の護りは愈々堅く、第一線推進の力は益々強化されつゝあるから、戦地の將士に於ても後顧の憂を斷ち、後方は銃後の官民の赤誠に信頼し、國民政府、共產軍其の他第三國の爲にするデマ宣傳に耳を傾けることなく、一意第一線の使命に邁進して貰ひたい。此の様に強化された舉國一致の態勢を以て第一線も銃後も相呼應して不屈不撓聖戰を推進するとき始めて今次事變は峠を越して帝國の期待は確實となり、東亞更生の聖業は如何なる困難、如何なる妨害をも排除して第二の階梯に到達し得るものと信

せらる。

五 むすび

事變の原
因たる東
亞の禍根

今次事變を惹き起した根本原因は東亞積年の禍根が伏在してゐたことにある。従つて今次事變を根本的に解決し、再び東亞に於て此の様な不祥事を繰り返さないためには、此の機會に右の禍根を芟除し、禍を轉じて福となし得る様に處理せねばならない。元來、東亞の諸民族は優秀なる天賦の能力をもち世界人口の二分の一乃至三分の一を占め、無限の資源を包蔵する天與の樂土を有ち、祖先の優れた文化を繼承し乍ら、近世に至つて一致協力自ら之を開拓し發展し得ずして却つて兄弟相争ひ、之がために天與の樂土の大半は第三國の植民地と化し、民族の大部は奴隸的境遇に陥りつゝあつたのである。従つて今次の事變に之等の禍根を一掃することは事變の根本的解決を圖ると同時に東亞諸民族の更生を期する所以である。

我が大日本帝國は明治以來既に此の禍根が東亞諸民族の致命的病源であることを認識

支那事變の眞意義

四五

1687